

基本評価シート
様式

(山形県環境エネルギー部 みどり自然課)

基本評価シート（イノシシ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	令和6年度山形県指定管理鳥獣（イノシシ）捕獲業務 東南村山【山形・天童】		
都道府県名	山形県	担当者部・係名	環境エネルギー部みどり自然課（自然環境担当）
担当者名		担当者連絡先	023-630-3404
捕獲実施事業者	認定を受けていない	予算額（※2）	千円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	千円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

地区名	事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
		捕獲頭数	目標達成率
東南村山地域	220 頭	205 頭	93.2%
合計	220 頭	205 頭	93.2%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

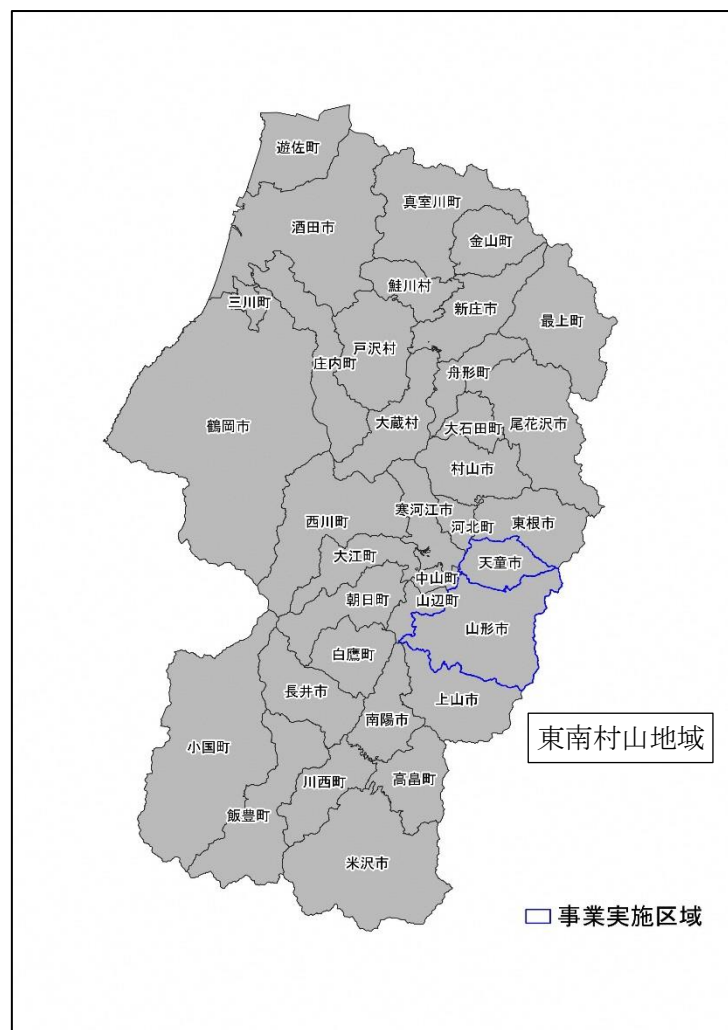
推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
15,265 頭（中央値） 5,533～37,082 頭（95%信頼区間） （令和5年度末時点）	3,600 頭 （令和5年度捕獲目標数）	約12,200 頭 （令和5年度）
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
500 頭（令和5年度）	1,876 頭（令和5年度）	427 頭（令和5年度）

○これまでの個体数管理の取組み（都道府県単独事業）

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	記述欄： 山形県におけるイノシシは、明治末期の記録を最後に絶滅したものとされていたが、平成14年1月に天童市で1頭が狩猟で捕獲されて以降、狩猟や有害捕獲によって捕獲される数が増え、また、その地域も確実に拡大している。県南の南東部、蔵王連峰の南北両端に位置する地域から捕獲数が増え始め、さらに新たな捕獲場所が広がり、現在では県内のほぼ全域において捕獲が報告されるようになっている。 また、農業被害も発生しており、平成19年度の上山市及び天童市での被害が報告されて以降、奥羽山脈に連なる山系を抱える市町を中心に被害量は年々増加している。 捕獲数については平成27年度230頭であったが、令和2年度は3,545頭と6年で約15倍の急激な増加がみられた。 こうした状況から、本県においてイノシシの生息域は拡大し、生息数が増加していることは間違いなく、現状の対策状況では農業被害の拡大や被害量の増加が懸念される。 こういった状況から、イノシシの適切な個体数管理を行っていくために市町村主導の有害捕獲や狩猟による捕獲に加え、当事業による捕獲を実施し捕獲圧の強化を図る。 ※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。
	【選択欄】 ☒ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。 ☐ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。
人材育成の観点	☐ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和6年11月1日から令和7年3月31日まで (内、捕獲作業を行う期間) 令和6年11月1日から令和7年2月28日まで
実施区域	東南村山地域 特徴：イノシシによる農作物被害が増加していることから早急に対策を行う必要がある。そのため、県、関係市町村が連携して広域的な捕獲により生息数を減少させる必要がある。
関係機関との協力	受託者が業務の実施にあたって、委託者及び関係市町村と連携協力して、関係者等（土地所有者、地域住民、狩猟者団体等）との調整を行い、合意形成を図った。
事業の捕獲目標	(93.2% 達成) = (205 頭 実績値) / (220 頭 目標値)
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☒ 巻き狩り ☒ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他 () 【わな猟】 ☒ くくりわな ☒ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他 ()
捕獲個体の確認方法	☐ 個体の身体の一部（耳、尾など） ☒ 写真（詳細を記載：) ☐ その他 ()
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☒ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可

環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。
	わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：箱わなに 30cm 四方の脱出口を設ける ） ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	鉛製銃弾について ☐ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☒ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	業務計画に基づき捕獲従事者への安全教育・訓練を行い、安全管理規程を尊重し安全管理体制を構築した。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：162 人



実施区域の位置図

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点	
【目標達成】	評価：目標捕獲数 220 頭に対し実績 205 頭、目標達成率 93.2%となり、達成には至らなかった。
	改善：令和6年度の結果から、積雪時期も継続してわな罠を続けたかがメッシュごとでの捕獲頭数に差が出たと考えられる。メッシュごとに捕獲実績の高い罠法が異なるため、他地域の捕獲実績を鑑みて、目標頭数を再検討する必要がある。
【実施期間】	評価：積雪前にわな罠を実施し、積雪後は銃罠を実施し、どちらも捕獲実績があったため、実施期間は適切だった。
	改善点：今後もわな罠、銃罠両方が実施できる期間で事業を実施する。
【実施区域】	評価：1つの地域で集中的に捕獲を行うことで、地域内のイノシシの生息頭数を調整することができ、捕獲実績をあげることができた。
	改善点：捕獲状況はその年の積雪などの気候状況やイノシシの生息状況で大きく変わるため、今後も同地域で設定することにより、安定した実績をあげることが見込まれる。
【捕獲手法】	評価：東南村山地域は、わな罠を主体とし、地域の状況に応じてくくりわなと箱わなを選択することで効率的に捕獲することができた。また、わな罠だけでは積雪により実施期間が限られるため、積雪期には、銃罠を実施することで捕獲目標頭数に近づけることができた。
	改善点：今後も地域の状況に応じて適切な罠法を選択できるようにする。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：事業者が受託者や住民としっかり連携することでスムーズに事業を実施することができた。
	改善点：今後はさらに効率的な捕獲を目指し、実施体制の強化を図りたい。
【個体処分】	評価：法令に従い適切に処理した。
	改善点：今後も適切な処理を行う。
【環境配慮】	評価：捕獲個体の放置は行わず適切に処理し環境に配慮した。
	改善点：今後も捕獲個体を環境に配慮した処理を行う。
【安全管理】	評価：実施計画や安全管理規程に基づいた事故防止対策の徹底を図った結果、人身事故等の重大事故は発生しなかった。また、今回は錯誤捕獲がカモシカで1件、ツキノワグマで1件発生したが適切な処理を行い、重大な事故は発生しなかった。
	改善点：引き続き安全管理規程の遵守を徹底する。

3. その他の事項に関する評価及び改善点
4. 全体評価 捕獲目標数 220 頭に対して捕獲実績 205 頭と 93.2%の達成率であった。目標に満たなかったものの、地域によって適切な猟法を選択して効率的に捕獲できていた。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本業務の実施によりイノシシを 205 頭捕獲することで、全体の捕獲数に上積みすることができた。ただし、個体数の大幅な減少には至っていない可能性があることから、本事業により捕獲を継続していく必要がある。
--

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報（体重、全長、胃の内容物）	
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	特になし。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1: 280.5 人日

事前調査人日数概数※2: 0 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: 190 人日

項 目	令和 6 年度 (事業年度の値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数	190 人日	人日	☐ 増加 ☐ 減少

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1: 10,988 人日

事前調査人日数概数※2: 90.5 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: 10,897 人日

項 目	猟具	令和 6 年度 (事業年度の 値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わ な基 × 日数)	くくりわな	19,346 基日	基日	☐ 増加 ☐ 減少
	箱わな	7,331 基日	基日	☐ 増加 ☐ 減少
	合計	26,677 基日	基日	☐ 増加 ☐ 減少

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 6 年度 (事業年度の値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	22 頭	頭	☐ 増加 ☐ 減少
② 目撃数	48 頭	頭	☐ 増加 ☐ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数 / 全捕獲数)	22.7%	%	☐ 増加 ☐ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数 / 全捕獲数)	0.0%	%	☐ 増加 ☐ 減少

◎令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 巻き狩り	7 頭	114 人日	0.061 頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	0.404 頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 忍び猟	15 頭	76 人日	0.197 頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	0.316 頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

③ わなによる捕獲

項 目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	183 頭	頭	☐ 増加 ☐ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	41.0%	%	☐ 増加 ☐ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	9.3%	%	☐ 増加 ☐ 減少

◎捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
☒ くくりわな	158 頭	19,346 基日	0.0082 頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 箱わな	25 頭	7,331 基日	0.0034 頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

ウ) 捕獲個体の適切な処理

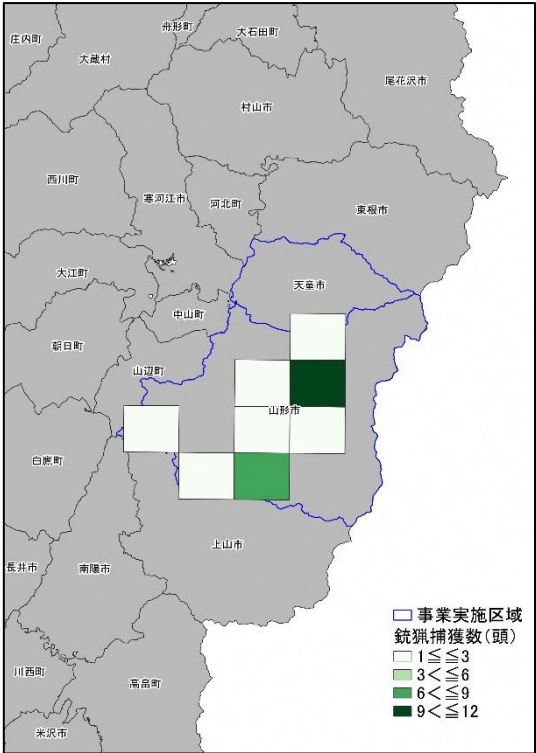
処理にかかる人工概数： 878.8 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 94 個体

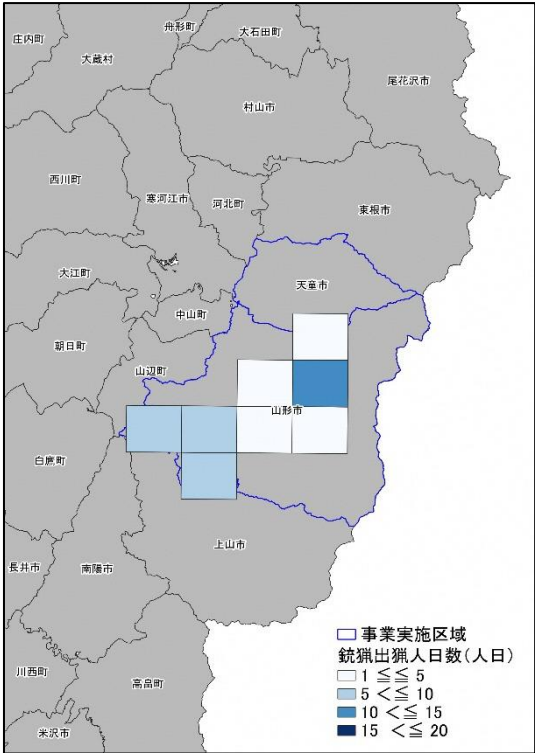
適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲個体の写真及び捕獲個体調査票を提出。

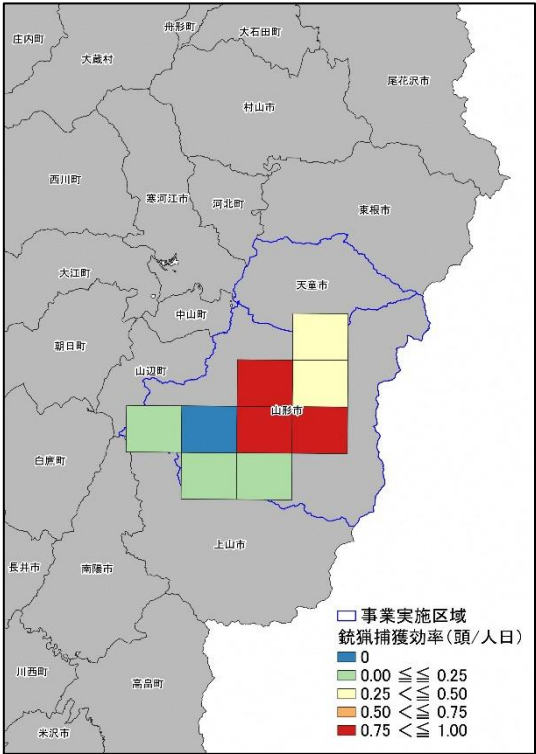
捕獲実績概略図



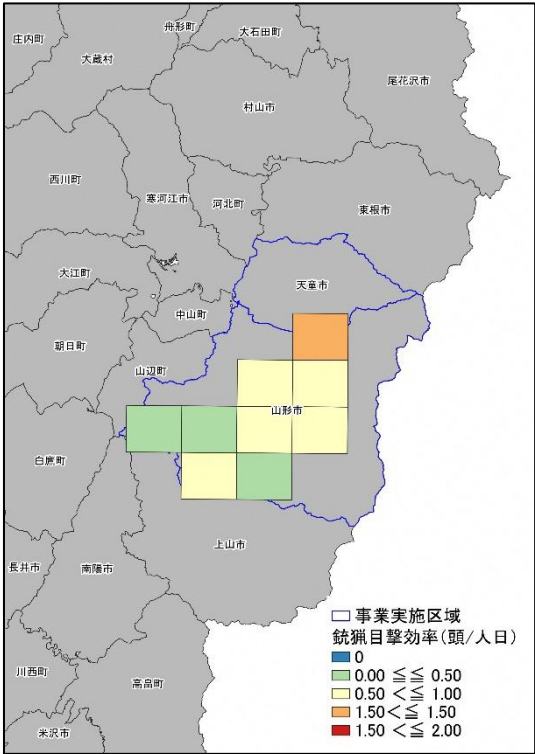
銃狢捕獲数 位置図



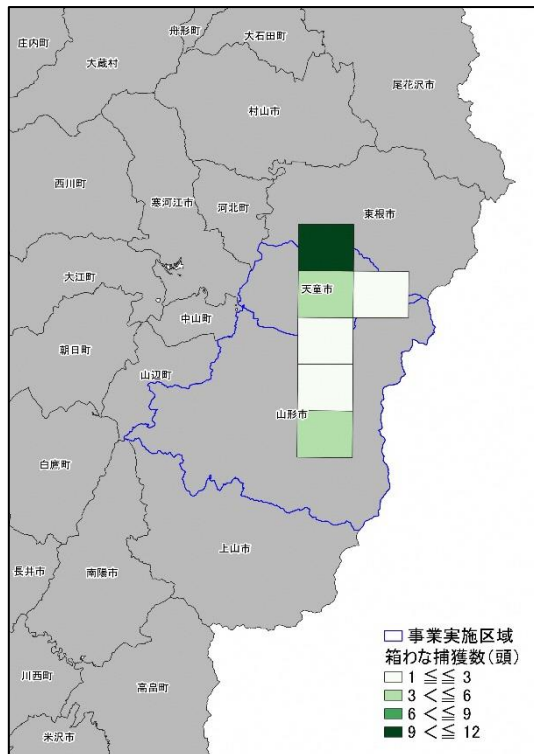
銃狢出猟人日数 位置図



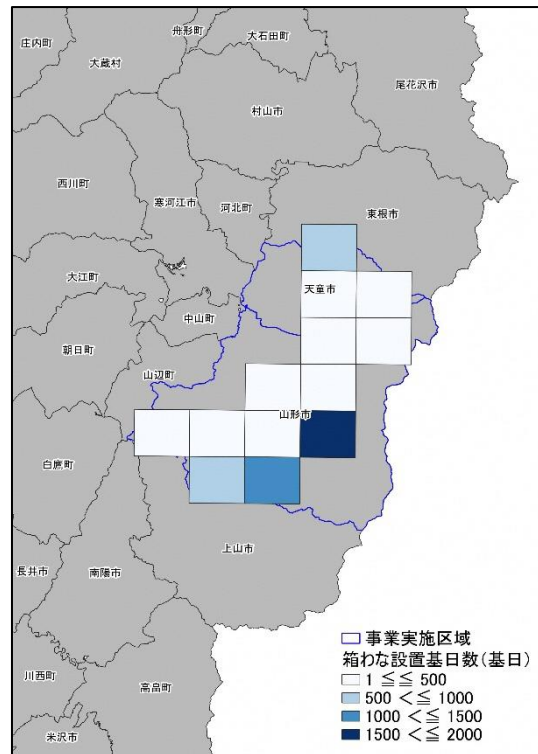
銃狢捕獲効率 位置図



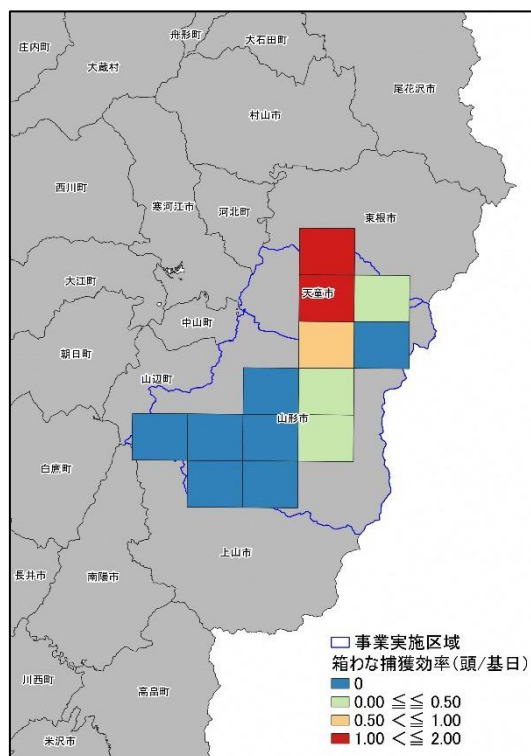
銃狢目撃効率 位置図



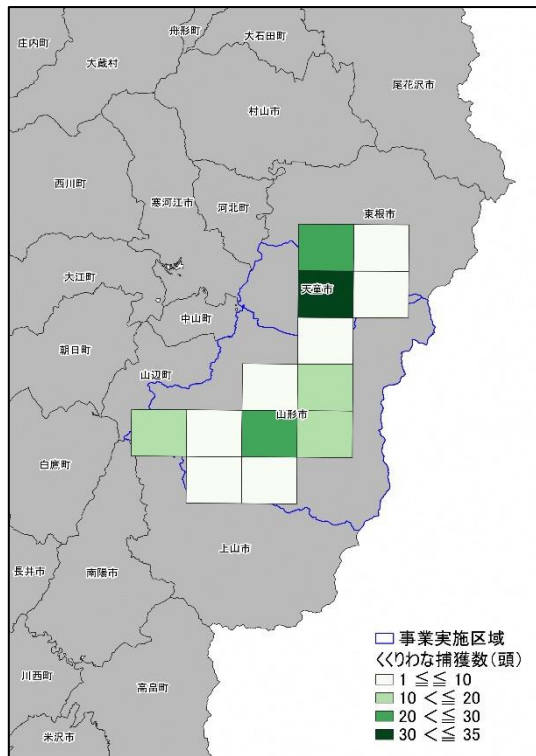
箱わな捕獲数 位置図



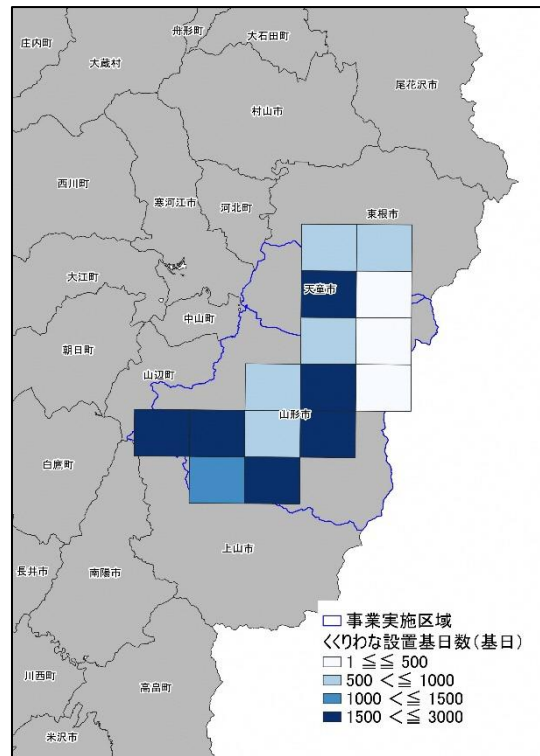
箱わな設置基日数 位置図



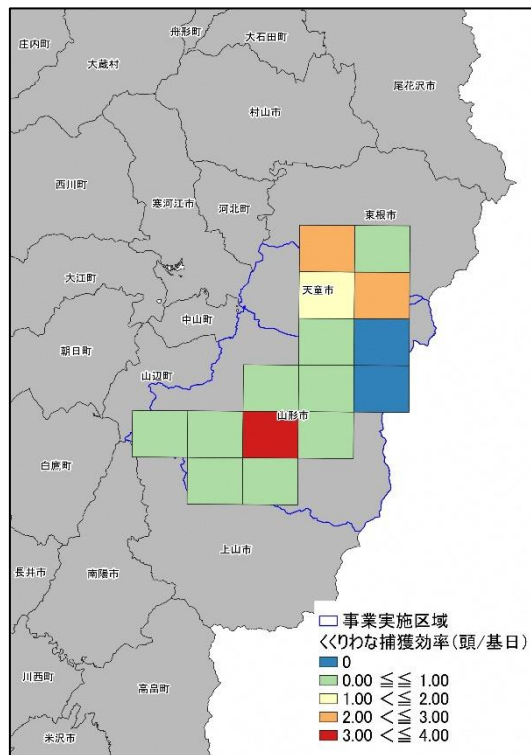
箱わな捕獲効率 位置図



くくりわな捕獲数 位置図



くくりわな設置基日数 位置図



くくりわな捕獲効率 位置図

5. 捕獲事業全体の実績

参考として、県全体の指定管理鳥獣捕獲等事業の実績を集計し以下に示す。

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

地区名	事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
		捕獲頭数	目標達成率
東南村山地域	220 頭	205 頭	93.2%
西村山地域	64 頭	97 頭	151.6%
最上地域	20 頭	22 頭	110.0%
置賜地域	29 頭	29 頭	100.0%
省内地域	25 頭	25 頭	100.0%
合計	358 頭	378 頭	105.6%

実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

① 銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 923.3 人日

事前調査人日数概数※2： 386.3 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 537.0 人日

項 目	令和 6 年度 (事業年度の値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	537 人日	418 人日	☒ 増加 ☐ 減少

② わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 15,141.3 人日

事前調査人日数概数※2： 188.3 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 14,953.0 人日

項 目	猟具	令和 6 年度 (事業年度の値)	令和 5 年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量(わな猟) わなの稼働総数（わ な基×日数）	くくりわな	27,155 基日	16,939 基日	☒ 増加 ☐ 減少
	箱わな	7,851 基日	3,217 基日	☒ 増加 ☐ 減少
	合計	35,006 基日	20,156 基日	☒ 増加 ☐ 減少

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	125 頭	54 頭	☒ 増加 ☐ 減少
② 目撃数	288 頭	119 頭	☒ 増加 ☐ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	33.6%	40.7%	☐ 増加 ☒ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	10.4%	10.1%	☒ 増加 ☐ 減少

◎捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 巻き狩り	20 頭	243 人日	0.082 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	0.395 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☒ 忍び猟	105 頭	294 人日	0.357 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	1.078 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

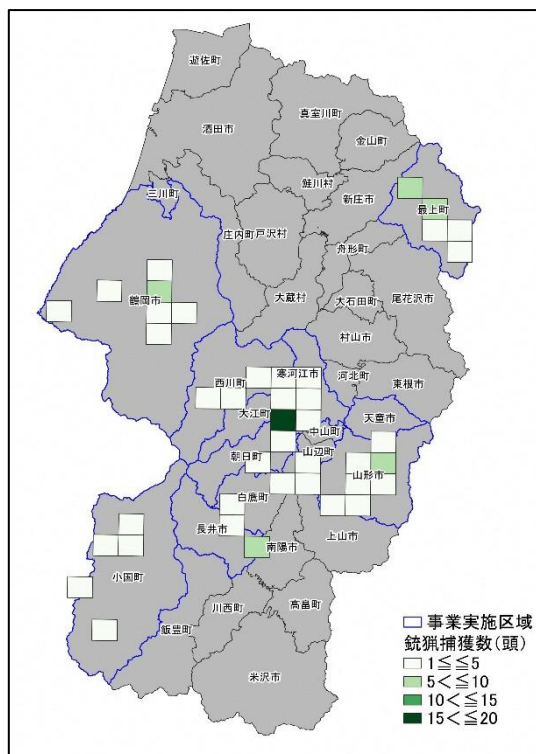
③ わなによる捕獲

項 目	令和6年度 (事業年度の値)	令和5年度 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	253 頭	373 頭	☐ 増加 ☒ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	44.3%	46.9%	☐ 増加 ☒ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	8.3%	18.0%	☐ 増加 ☒ 減少

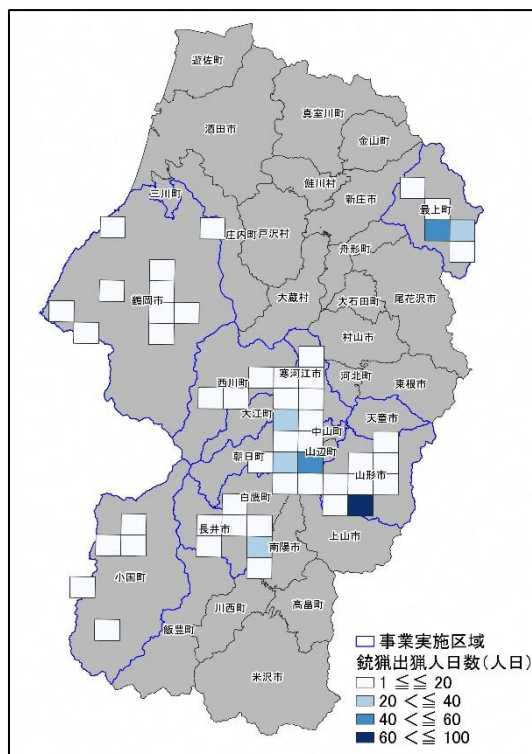
◎捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
☒ くくりわな	228 頭	27,155 基日	0.0084 頭/基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☒ 箱わな	25 頭	7,851 基日	0.0032 頭/基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

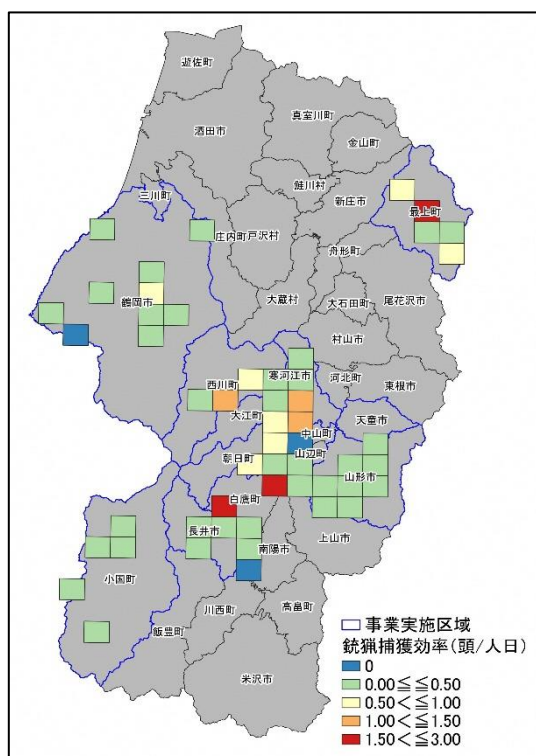
捕獲実績概略図



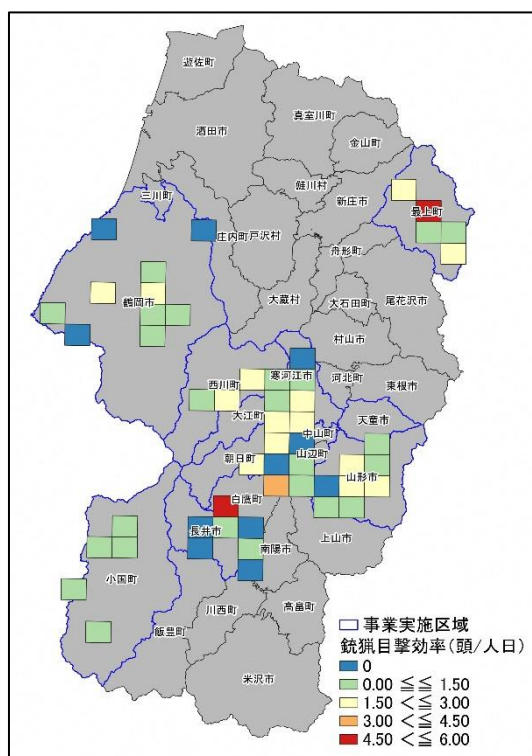
銃猟捕獲数 位置図



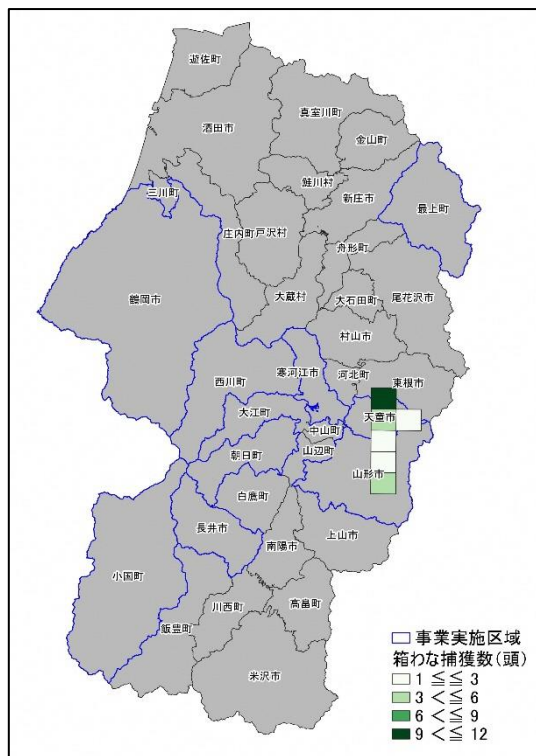
銃猟出猟人日数 位置図



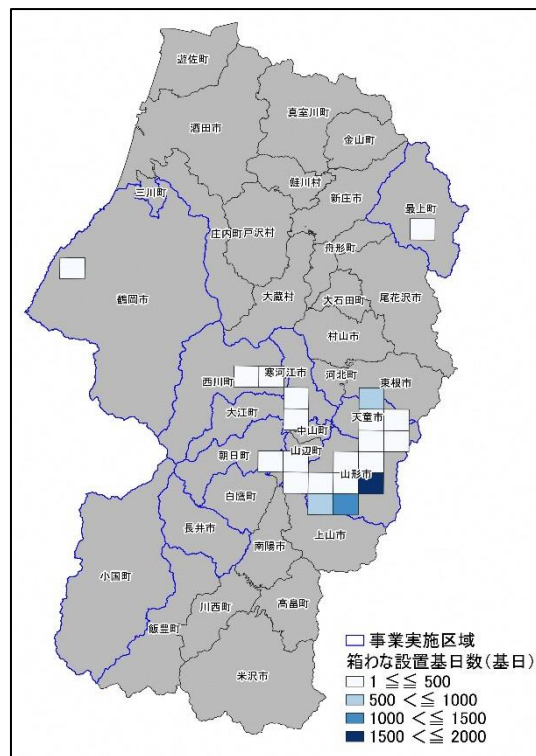
銃猟捕獲効率 位置図



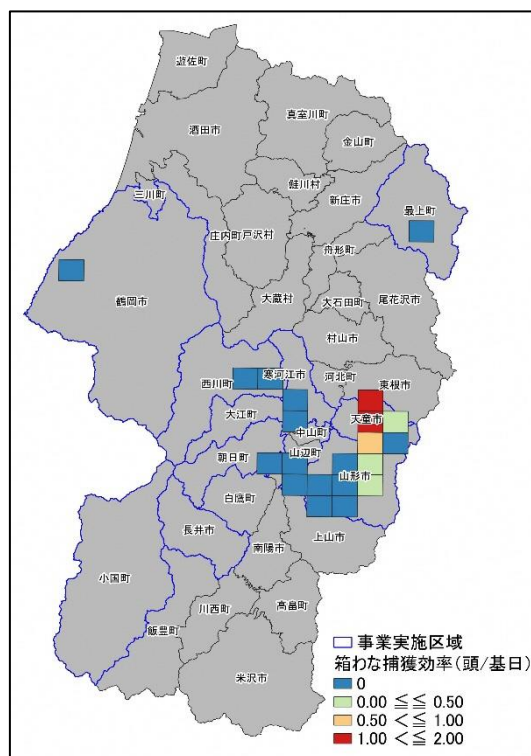
銃猟目撃効率 位置図



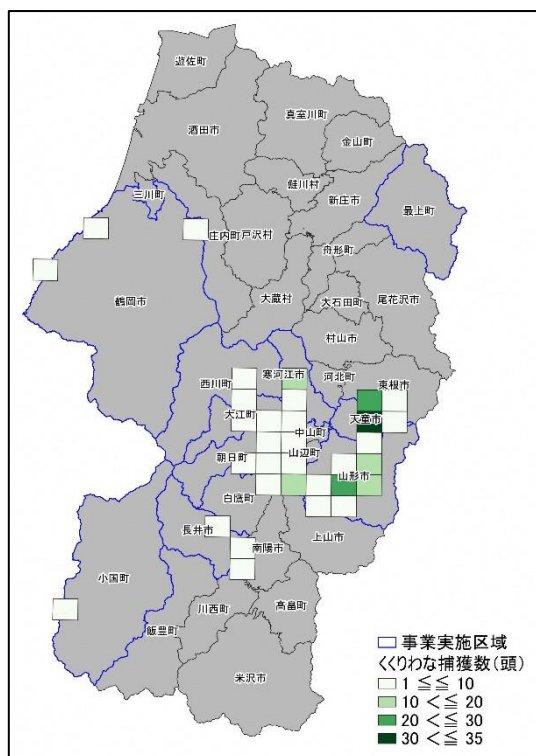
箱わな捕獲数 位置図



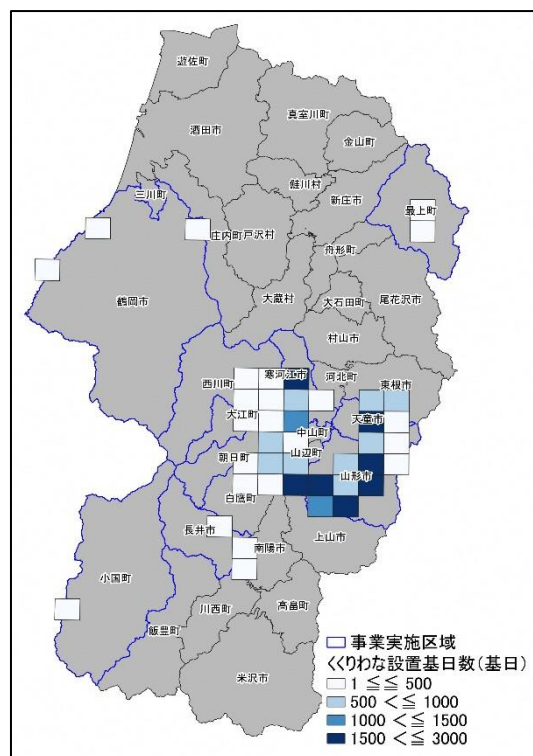
箱わな設置基日数 位置図



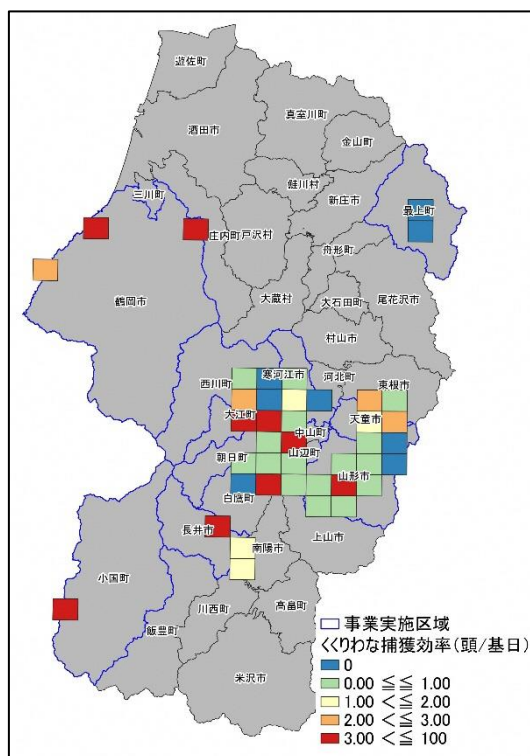
箱わな捕獲効率 位置図



くくりわな捕獲数 位置図



くくりわな設置基日数 位置図



くくりわな捕獲効率 位置図